

3. 協議事項

(1) 駅周辺のまちづくり構想

1.1 まちづくりの方向性

魚津駅周辺には、飲食施設・宿泊施設・公的施設・文教施設などが集まっており、賑わいにつながる多くの要素を有している。

魚津駅と新魚津駅を合わせて1日5000人を超える人が行き来しており、駅の賑わいが周辺地域の賑わいにつながるような駅および駅前広場の構造を目指す。

歩行者の動線を重視してできるだけ段差のない構造として、高齢者等にやさしいまちづくりを目指す。

また、多くの高校生が行き交う駅でもあり、若者が集えるような場所を生み出すことによって賑わいにつなげることを目指す。

飲食街として夜にも賑わうエリアもあり、歩行者が安心・安全に歩くことができるまちとすることによってさらなる活性化を図る。

1.2 都市軸・ゾーニングの説明

【都市軸の設定】

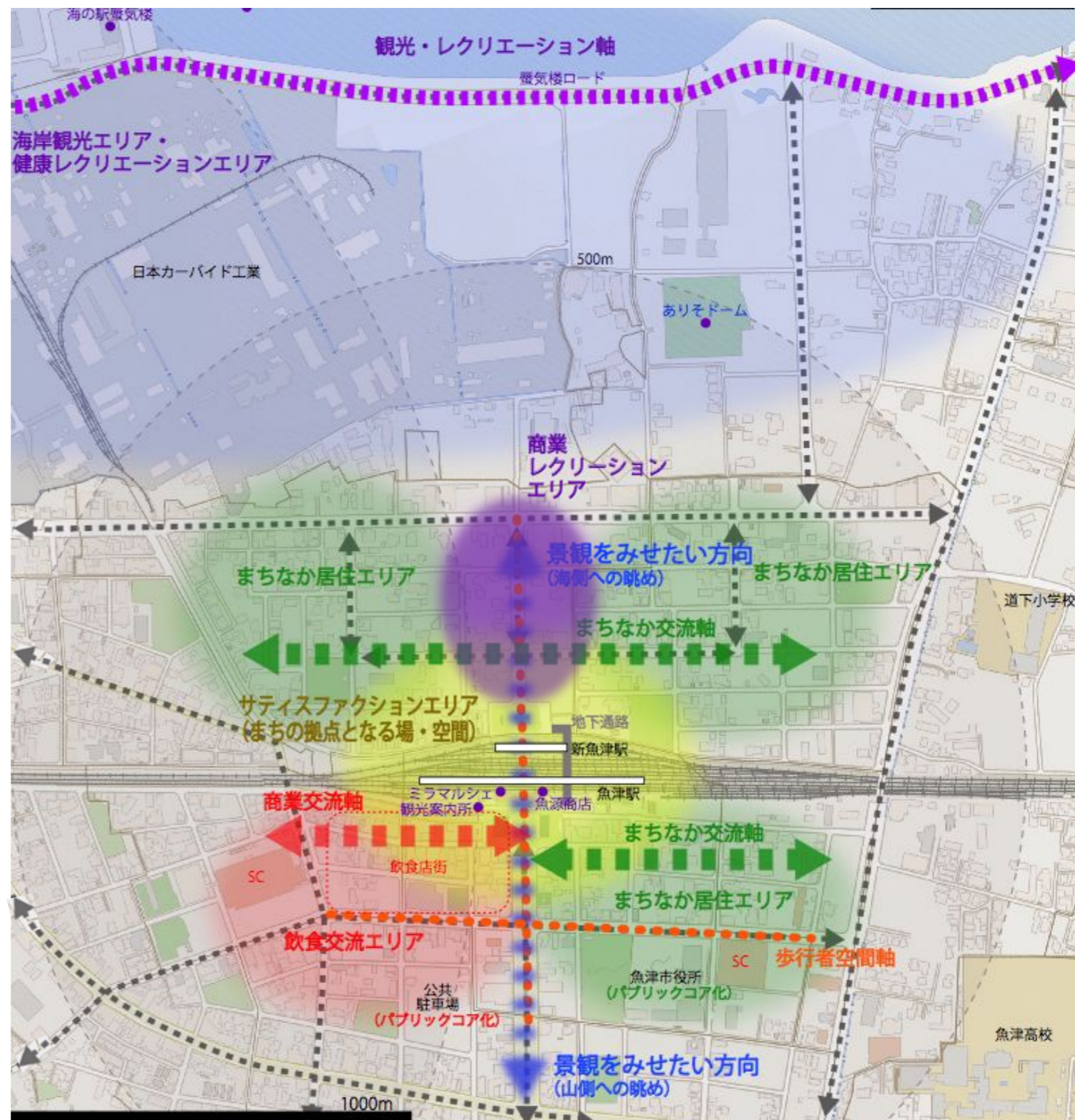
● 景観軸（海へのビスタ・山へのビスタ）

駅空間は、まちの顔・玄関口であり、東口からは山へのビスタを望むことができる。さらに西口から海も近く、海へのビスタも創出できる可能性がある。これらの景観軸は、山から海へと続くコンパクトな魚津の地形（地域資源）が生み出す固有の都市軸として位置づけることができる。一方で、現状の駅空間はまちの東側と西側の分断要因になっているため、まちの連続性を確保するためには、この景観軸が重要な都市軸としての役割を担う。

● 商業交流軸

飲食店街や観光案内所をはじめとする商業施設や機能をつなぎ、商業交流や賑わいの活性化を図る都市軸として位置づける。

この商業交流軸と景観軸が交わるエリアは、オープンテラスやオープンカフェなど、魚津特有の眺望を活用した商業施設の展開も想定できる。



●観光レクリエーション軸

「埋没林博物館」「海の駅蜃気楼」「ありそドーム」「魚津市場おさかなランド」「蜃気楼ロード」といった主要な観光施設をはじめ、ユネスコ無形文化遺産・国重要無形民俗文化財・県有形民俗文化財に指定されている「タテモンまつり」あるいは「海上花火大会」などのイベント、「蜃気楼」といった観光資源は、海側に集積されている。これらの観光資源をネットワーク化した都市軸を観光レクリエーション軸として位置づける。

海へのビスタを創出する景観軸から観光レクリエーション軸へといざなうように連動させる。

●まちなか交流軸

主要な公共公益施設や生活拠点を結ぶ都市軸として位置づける。

景観軸の主導、駅空間の再整備及び東西空間の連続性を確保することで、西側エリアの居住誘導の促進にも繋げる。

●歩行者空間軸

地域のウォーキング、観光者・来訪者の観光やまちあるきなど、歩行者優先の道路空間に再編し、花が彩るオープンカフェや木陰のフリーマーケットなど、楽しく賑わいある広場のような歩行者空間軸として位置づける。

この歩行者空間軸は、周辺エリアにも足を延ばすきっかけを促す空間、まちづくりの骨格をなす都市軸としての役割も担う。

また、駅空間の再編により東西の連続性が確保できれば、連続性ある歩行者空間軸を形成することも可能である。景観軸と連動させながら地域の健康増進につながるような歩行者空間軸を形成させることも期待できる（駅空間から海までの圏域：500～1,000mの範囲）。



【ゾーニングの設定】

●サティスファクションエリア（まちの拠点となる場・空間）

駅周辺既存公共施設のリフレッシュにより、ポテンシャルを最大限に発揮させて利用環境を改善し、広域公共交通の連携充実も促進しながら、通勤通学利用者の満足度を向上させるエリアとして位置づける。

駅や両駅前広場を中心に交流と交通の結節機能を充実させ、魚津市の玄関口として、学生をはじめとした多くの市民や来訪者との多様な交流により、世代をつなげるまちづくりの拠点が創出されるエリアとしても期待できる。

—実現方法の提案—

【新魚津駅】 駅西広場から新魚津駅に直接乗入れ可能なバリアフリー通路の設置

【地下道】 両駅前広場を結ぶ地下道に音と光を用いた電光掲示等の整備

【駅前広場】 利用し易く歩行者に優しい両駅前広場への再編整備

【設備・案内】 ユニバーサルデザイン化された案内看板や券売機への更新整備

【駐輪場・トイレ】 駐輪場やトイレ施設のリフレッシュ

【待合室】 主に両鉄道利用者が使える待合空間の拡充

【駐車場】 駅西広場や本エリア外周部の空地を利用した有料駐車場の整備



駅舎整備の場合

【駅舎】 広い自由通路と一体となった橋上駅舎の整備

【駅舎】 託児所や、親子サロン等の子育て支援施設と一体となった複合駅舎の整備

【駅舎】 主に高齢者を対象とした健康増進窓口や、ふれあいサロン等の社会福祉施設が一体となった複合駅舎の整備

【駅舎】 魚津の顔となる外観や機能を持つユニバーサルデザイン駅舎の整備



複合施設整備の場合

【複合施設】 展望カフェや親子喫茶等、ゆったりとくつろげる施設が一体となった複合施設の整備

【複合施設】 居住や宿泊機能のある複合施設の整備

【駅前広場】 駅前広場の再編による歩行者自由空間の拡充整備

【先導策】 ICカードや総合的な交通運行・情報提供等、新しいシステムの導入

●まちなか居住エリア

各エリアに隣接し、まちなかでの生活に便利なエリアとして位置づける。

特に駅東側にある市役所前公園と市役所庁舎の周辺を「パブリックコア」として位置づけ、市役所庁舎の建替えに併せた公共施設の複合集約化を行い、行政サービスの一元化によるワンストップサービスの実現等、公共サービスの充実を図りながら、まちなか居住環境向上による居住誘導の促進に努める。

他方で、都市部のグリーン帯となる緑地公園として「パークコア」に位置づける事も可能であり、この場合は市民の憩いの場として、またイベント広場としても使い勝手が良く、来訪者からも親しまれる「まちなか緑地公園」が創出され、周辺の居住エリアは健康的で住み良い住環境形成を目指す方向性もある。この場合は周辺空地への市庁舎移転が必要となる。



—実現方法の提案—

【住まい】市内居住者住宅取得支援、転入者住宅取得支援、若年移住者賃貸住宅助成、うおづの木利用促進、空家取得支援、空家バンク等の既存各種制度の拡充

【子育て】不妊・不育症治療助成、妊産婦医療助成、こども医療費助成、子育て支援コーディネーター、ファミリーサポートセンター、保育料軽減事業、ひとり親支援等の既存各種制度の拡充

【健康・長寿】在宅で生活や高齢者を介護している方へのサービス等の既存各種支援制度の拡充

上記は、現在実施中の施策を記載しております。

居住誘導の促進につながる施策の提案や事業化等については、立地適正化計画策定の中で検討を進めます。

●飲食交流エリア

市民はもとより交流人口の誘導も見据えながら、昼夜を問わない飲食店街、魅力的な商業・業務・宿泊施設等が連携・競争しながら活性化できるように必要な支援を充実させていくエリアとして位置づける。

例えば、「まちなか居住エリアのパークコア」実現に必要な市役所庁舎の移転先を本エリア内に設けた場合は、既存商業施設等とも連携した行政機能集約により多目的に多くの人が集まる場所が創出され、ソフトとハードの両面から活性化の支援促進が図られるエリアとして位置づける方向性もある。

—実現方法の提案—

【働く】創業者支援制度、資格取得支援制度等の既存各種制度の拡充

上記は、現在実施中の施策を記載しております。

都市機能誘導の促進につながる施策の提案や事業化等については、立地適正化計画策定の中で検討を進めます。



●海岸観光エリア・健康レクリエーションエリア】

「ありそドーム」、「埋没林博物館」、「海の駅蜃気楼」等の施設があり、また「タテモン」、「海上花火大会」等の各種催し物も開かれるなど、魚津の多様な地域資源が集積するエリアとして位置づける。

これらの施設や催し物については、駅周辺から少し足を延ばせば届く身近なものとして、また、来場者が広域的に訪れる目的地の一つとして、案内看板の充実や沿道の緑化等により、利用・来場してもらいやすい環境作りに努める。例えば、「サティスファクションエリア」からの明確な移動経路として、施設案内等が所々に設けられた自転車・歩行者用遊歩道を設ける等、利用してもらい易い環境整備や、県内外からの観光利用者が多い施設などの集積により、既存施設と連携した健康・観光産業拠点の創出を図ることも可能となる。

公共交通ネットワークなど必要となる施策等については、立地適正化計画策定の中で検討を進めます。



●商業レクリエーションエリア

駅周辺より海側（西側）において海岸観光エリア・健康レクリエーションエリアとまちなか居住エリアの中間領域に位置するエリアとして位置づける。

まちなか居住者をはじめとする地域住民や、観光者をはじめとする来訪者の賑わいを付与するような商業・レクリエーション施設の展開を目指し、駅空間をコアとした東西のまちの連続性確保、海岸観光エリア・健康レクリエーションエリアとまちなか居住エリアの活性化に伴い、魅力ある土地利用の展開が期待される。

—実現方法の提案—

【働く】創業者支援制度、資格取得支援制度等の既存各種制度の拡充

上記は、現在実施中の施策を記載しております。

都市機能誘導の促進につながる施策の提案や事業化等については、立地適正化計画策定の中で検討を進めます。

（前回協議会での意見）

- まちづくりの方向性 内容は良いので、今後の具体化に期待。

海～駅～山へと続く自然景観は価値が高く、景観資源を核とした景観軸の観点は良い。

- 都市軸・ゾーニング 観光開発の観点から、駅と海側観光施設の間にある日本カーバイド敷地の利活用を期待。

まちなか居住エリアや商業レクリエーションエリア等は、日常的に利用する方の事を考え、誘導の実現に必要な行政支援の実施や施設配置の検討に期待。

景観軸は、本当に見えるのか現地状況の把握が必要。

- 個別施設 宿泊施設や商業施設は、商圈や既存施設等も考慮した検討が必要。

オープンスペース等は冬季の収入や集客確保策が必要。